



今日のトピック 市場予想を大きく下回った米雇用統計（2019年5月）
貿易摩擦への不透明感もありFRBの利下げ期待高まる

ポイント1

雇用者数は7.5万人増
雇用情勢は緩やかに鈍化方向へ

- 2019年5月の非農業部門雇用者数は前月比7.5万人増となり、ブルームバーグ集計による市場予想（17.5万人増）を大きく下回りました。また、3、4月分も下方修正されました。
- 米中関係悪化などに対する不透明感から新規の雇用が抑制されたとみられ、貿易摩擦の影響を受けやすい製造業だけでなく、サービスなど非製造業の減少が目立ちました。ただし、他の指標は比較的堅調であり、雇用情勢は緩やかに鈍化しているものの急激に悪化しているわけではなさそうです。

ポイント2

失業率は横ばい
賃金の伸びは鈍化

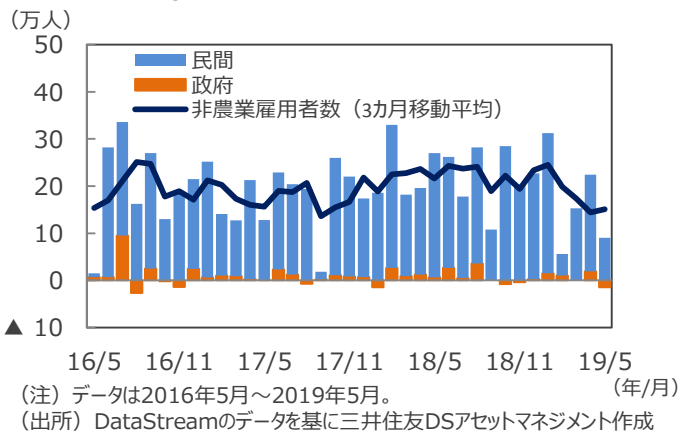
- 5月の失業率は前月比横ばいの3.6%となりました。
- 一方、賃金は前年同月比3.1%増と4月分の同3.2%増から伸び率が鈍化しました。前月比は0.2%増と前月と同じ伸びでした。
- 米国の企業業績の伸びが鈍化すると予想される中、19年の賃金上昇ペースも緩やかになると見られます。

今後の展開

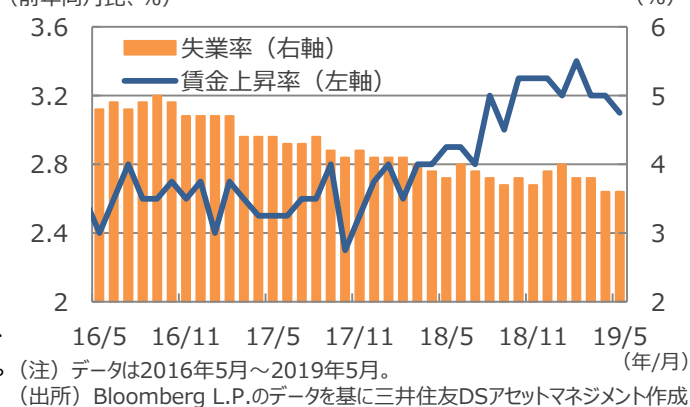
FRBによる早期利下げ観測が高まる

- 7日の米国市場では、雇用統計の結果を受けて米連邦準備制度理事会（FRB）の早期利下げ観測が一段と高まり、米長期金利が低下し為替は円高・ドル安が進みました。パウエルFRB議長が4日に「米中通商問題による景気への下方リスクが高まった時点でFRBが予防的に動く準備がある」と、利下げの可能性を示唆していることも踏まえ、7月に予防的利下げが実施されるものと見られます。一方、FRBによる利下げ見通しは既に市場に相当程度織り込まれているため、日米金利差縮小による一層の円高進行は限定的と見られます。
- 米政府がメキシコへの追加関税引き上げを見送り、貿易摩擦激化への不透明感がやや和らいだものの、米中の対立は長期化することが予想されるため、米中交渉の行方には引き続き注視が必要です。

【非農業部門雇用者数の推移（前月比増減）】



【賃金上昇率と失業率】



**ここも
チェック!**

2019年6月6日 吉川レポート（2019年6月）米中対立再燃と世界経済・金融市場
2019年6月3日 『米中摩擦』5：米中対立の今後の展開は？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。